CASBEE®あいち 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要

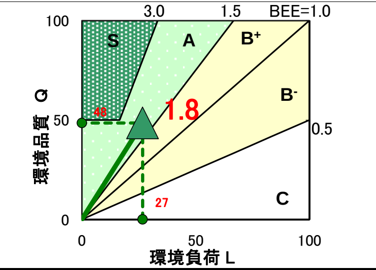
建物名称	一宮萩原ロジスティクスセンター	階数	地上4階
建設地	愛知県一宮市萩原町林野字鷺宮1番1他	構造	SRC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年4月 予定	評価の実施日	2024年7月2日
敷地面積	32,085 ㎡	作成者	寺川幸子
建築面積	20,435 ㎡	確認日	2024年7月2日
延床面積	76,531 ㎡	確認者	大隈佳之

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

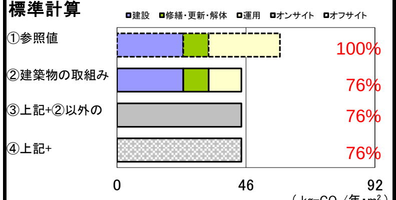
BEE =1.8 ★★★★

S: ★★★★★　A: ★★★★　B⁺: ★★★　B⁻: ★★　C: ★



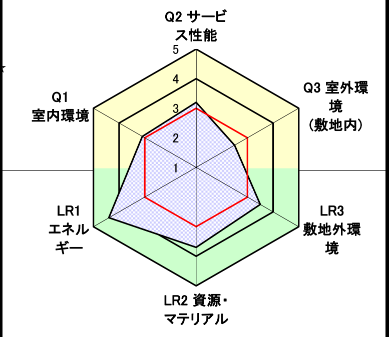
2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

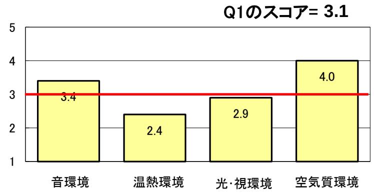
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



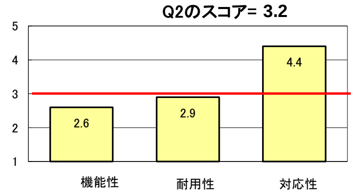
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　*Q のスコア=　2.9*

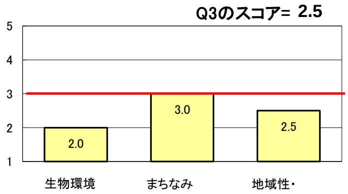
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.2

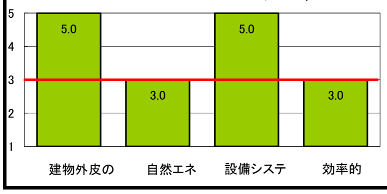


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.5

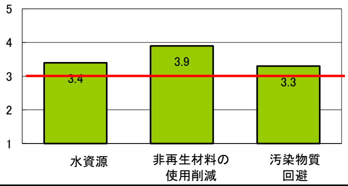


LR 環境負荷低減性　*LR のスコア=　3.9*

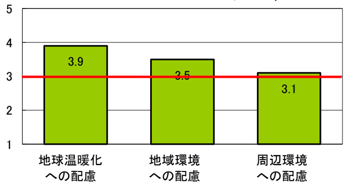
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.4



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.7



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.5



3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3．9

③敷地内の緑化

2．0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	41.0 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

②資源の有効活用

3．7

④地域材の活用

1．0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。
①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数＝ 中高木の樹冠の水平投影面積＋低木・地被等の植栽面積 / 敷地面積から建物面積（建築面積及び附属物面積）を除いた ×100

建物緑化指数＝ 屋上緑化面積＋壁面緑化面積 / 建築によって占有された部分の水平投影面積（法定面積） ×100

CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
一宮萩原ロジスティクスセンター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:　CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
■評価ソフト:　CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	独自基準 / 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									**2.9**
Q1 室内環境					0.30			-	**3.1**
1 音環境			0.1	**3.4**	0.15	-	-	-	**3.4**
1.1 室内騒音レベル			3.0	**3.0**	0.40		3.0	-	
1.2 遮音			0.4	**4.2**	0.40		-	-	
1 開口部遮音性能		T-2	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 界壁遮音性能			-	3.0	0.40		3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	-		3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	-		3.0	-	
1.3 吸音			-	**3.0**	0.20		3.0	-	
2 温熱環境			0.3	**2.4**	0.35	-	-	-	**2.4**
2.1 室温制御			0.5	**2.7**	0.50	-	-	-	
1 室温			3.0	3.0	0.38		3.0	-	
2 外皮性能			3.0	2.0	0.25		3.0	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	3.0	0.38		-	-	
2.2 湿度制御			3.0	**1.0**	0.20		3.0	-	
2.3 空調方式			3.0	3.0	0.30		3.0	-	
3 光・視環境			0.2	**2.9**	0.25	-	-	-	**2.9**
3.1 昼光利用			0.3	**2.4**	0.30	-	-	-	
1 昼光率			3.0	2.0	0.60		3.0	-	
2 方位別開口			-	-	-		3.0	-	
3 昼光利用設備			3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 グレア対策			0.3	**3.0**	0.30	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	3.0	1.00		3.0	-	
3.3 照度		500lx以上1000lx未満	3.0	**4.0**	0.15		3.0	-	
3.4 照明制御			3.0	**3.0**	0.25		3.0	-	
4 空気質環境			0.2	**4.0**	0.25	-	-	-	**4.0**
4.1 発生源対策			0.5	**5.0**	0.50	-	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆でVOC放散量が極めて少ない建材を全面的に採用	3.0	5.0	1.00		3.0	-	
4.2 換気			0.3	**3.0**	0.30	-	-	-	
1 換気量			3.0	3.0	0.33		3.0	-	
2 自然換気性能			3.0	3.0	0.33		3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.33		3.0	-	
4.3 運用管理			0.2	**3.0**	0.20	-	-	-	
1 CO_2の監視			3.0	3.0	0.50		-	-	
2 喫煙の制御			3.0	3.0	0.50		-	-	
Q2 サービス性能				–	0.30		-	-	**3.2**
1 機能性			0.4	**2.6**	0.40	-	-	-	**2.6**
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	**1.6**	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	3.0	0.33		3.0	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	1.0	0.33		3.0	-	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	1.0	0.33		-	-	
1.2 心理性・快適性			0.3	**3.6**	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観　（天井高）		天井高さ3.0m	3.0	5.0	0.33		3.0	-	
2 リフレッシュスペース		ﾘﾌﾚｯｼｭｽﾍﾟｰｽが執務ｽﾍﾟｰｽの1%以上で自販機等の設置あり	3.0	5.0	0.33		-	-	
3 内装計画			3.0	1.0	0.33		-	-	
1.3 維持管理			0.3	**3.0**	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保			-	3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性			0.3	**2.9**	0.31	-	-	-	**2.9**
2.1 耐震・免震・制震・制振	②		0.4	**3.0**	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	**3.0**	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			-	2.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種以上にB以上使用、Eは不使用	-	5.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性			0.1	**2.8**	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備	②		3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20		-	-	
3 電気設備			3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性			0.2	4.4	0.29	-	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		階高6.0m以上	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率＜0.1	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		4500N/㎡以上	3.0	5.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備のゆとり			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性		EPS・ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸによる配線	3.0	5.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性		EPS・ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸによる配線	3.0	5.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				–	0.40		-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-			-	**3.9**
LR1 エネルギー				–	0.40		-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.71	3.0	5.0	0.20		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.10		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.46	3.0	5.0	0.50		-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				–	0.30		-	-	3.7
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		省水型便器、擬音装置、自動水栓、節水コマの採用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減		Fc36,F=390以上、490級鋼材、BCPの使用	-	4.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	―	-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	カーペット、ビニル床、砕石	3.0	5.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	解体時の分別が容易な工法およびOAﾌﾛｱ採用	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3	-	4.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				–	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率76%	-	3.9	0.33		-	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置がなく大気汚染物質を発生しない	-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制	独自	駐輪駐車場・ﾄﾗｯｸﾊﾞｰｽの設置、複数出入口の計画により周辺道路の渋滞緩和に配慮	-	5.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動	独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-		-		
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ﾁｪｯｸﾘｽﾄの一部、広告物照明の配慮事項の過半を満たす	-	4.0	0.70		-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート　実施設計段階

一宮萩原ロジスティクスセンター

■使用評価マニュアル　CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
■評価ソフト:　CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目（配慮項目）		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
①　地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
②　資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③　敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	外構緑化:41%/建物緑化:0%
④　地域材の活用		（評価ポイント）		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 Ⅰ 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
　重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用
　重点項目スコア＝（評価点×全体に対する重み）の総和 ／ 重みの総和

④地域材の活用
　重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称　一宮萩原ロジスティクスセンター

計画上の配慮事項	
総合	高い外皮性能を確保や、高効率設備の採用により省エネルギー性に配慮し、低炭素社会の実現に努めた計画。室内環境やサービス性能に配慮し、環境品質の向上に努めた。資源・マテリアル性に配慮し、環境負荷低減に努めた。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆かつVOC放散量の少ない建材を全面的に採用し、健全な空気質環境づくりに努めている。
Q2 サービス性能	天井高さを十分に確保し、広さ感に配慮している。ゆとりのある階高と空間の自由さ、積載荷重の計画により、設備やプランニングの自由度が極めて高い。
Q3 室外環境（敷地内）	中木・低木・被地植物等により敷地内緑化に努めている。
LR1 エネルギー	適切な断熱材を施し、熱負荷抑制に努めた。高効率設備により省エネルギー性に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	建物の節水性に配慮している。躯体材料以外にリサイクル材を採用し、非再生性資源の使用量削減に努めた。ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避を行った。
LR3 敷地外環境	消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮している。充実した駐車駐輪施設の計画に加え、敷地周辺への交通負荷抑制に努めた。
その他	